

2007年度日本エイズ学会第1回理事会議事録

日時：2007年5月29日（火）

午後1時～3時

場所：国立感染症研究所 共用第2会議室

出席者：池上千寿子，池田和子，加藤真吾，菊池 嘉，小柳義夫，佐藤裕徳，島田 勝，高田 昇，高橋秀実，塚原優己，中瀬克己，松下修三，三間屋純一，山本直樹（理事長），池田正一（監事），木村 哲（監事）以上16名

欠席者：味澤 篤，市川誠一，稲葉憲之，今井光信，岩本愛吉，奥田研爾，白阪琢磨，杉浦 互 以上8名

事務局：佐々木博樹（株式会社毎日学術フォーラム）

【報告事項】

1) 会員現況

事務局より会員現況（昨年同期より156名増，団体を含む合計会員数：1881名）について報告がなされた。

2) 2006年度決算見込み報告

事務局より，2006年度の決算見込みについて，主な項目を中心に説明がなされた。決算案が確定次第，会計監査が行われる予定である。

3) 日本エイズ学会誌刊行状況

高田理事より，2006年度の学会誌刊行状況について説明された。

また，投稿規定の改定を検討中であり，次回理事会議題として提出される予定であることが報告された。

4) HIV/AIDS臨床関連事項検討委員会の検討事項について

山本理事長より，2007年2月に実施された審議事項（セロスティム注の供給停止に関する学会としての対応）について説明がなされた。

5) 日本エイズ学会ホームページ報告

高田理事より，2006年度における学会ホームページの更新状況について報告された。

6) 第21回（2007年度）日本エイズ学会学術集会について

高田会長より第21回学術集会の準備状況について報告された。

会期：2007年11月28日（水）～11月30日（金）

会場：広島国際会議場

また，学術集会のメインテーマ（STEP UP! 情報・教育）及び，特別講演，シンポジウム，教育講演等について説明がなされた。

7) 第22回（2008年）日本エイズ学会学術集会について

小柳次期会長より，第22回学術集会の準備状況が報告された。

会期：2008年11月26日（水）～28日（金）

会場：大阪国際交流センター

8) 第8回（2007年度）ECC山口メモリアルエイズ研究奨励賞について

事務局より募集概要について説明された。募集要項は学会誌 Vol. 9 No. 2 に掲載される予定である。

【審議事項】

1) 理事長推薦理事について

山本理事長より，国立感染症研究所病原体ゲノム解析センターの佐藤裕徳氏を理事に推薦することが報告され，承認された。

2) 監事の指名について

山本理事長より，監事として神奈川県立神奈川歯科大学付属横浜研修センターの池田正一氏及び，東京通信病院の木村 哲氏が推薦され，両氏が選出された。山本理事長が両氏に監事を委嘱した。

3) 理事の役割分担について

学会庶務は松下修三理事，会計は佐藤裕徳理事，編集は杉浦 互理事，ホームページは高田 昇理事が担当することが承認された。

4) HIV/AIDS臨床関連事項検討委員会について

2007年度～2008年度委員長に白阪琢磨理事，委員は味澤 篤理事，稲葉憲之理事，高田 昇理事，松下修三理事，三間屋純一理事が就任することが承認された。

また，ダルナピルの早期保険適応の要望についての対応が審議され，学会として意見書を提出することとなった。

5) 第23回（2009年度）日本エイズ学会会長候補の選出について

これまでの臨床・基礎・社会の各分野別の開催状況，開催地等を考慮の上，審議・投票が行われた結果，名古屋市立大学の市川誠一理事が選出された。

6) アルトマーク賞について

松下理事より第1回，第2回選考の経緯が説明され，第3回（2006年度）については，選考におけるより厳格な審議及び，公平性の確保の為に選考委員会が設置され慎重に議論が行われたこと，その後，持ち回り理事会において賞のあり方を含めた審議が重ねて行われたことが報告された。（持ち回り理事会における審議の結果は現行通り9票，見直し5票，中立1票となった。）

この結果をふまえた上で検討が行われ，賞のあり方は従来通りで変更のないこと，選考は理事会における審議・投票により決定すること，未決定の第3回の候補者については，今年度の応募者とともに選考対象とし，本年度は受賞者を2名選出することが決定した。

7) 日本性感染症学会との合同シンポジウムについて

山本理事長より，本年度の合同シンポジウムの計画につ

いて説明された。

この件に関し、木村監事より過去の合同シンポジウム開催の経緯、池上理事より第20回学術集会における合同開催について説明がなされた。

本年度の学術集会における合同開催の内容、次年度以降のあり方については今後、山本理事長、岩本前理事長を中心として、日本性感染症学会と調整の上、決定することとなった。

8) ホームページ掲載の学会誌へのアクセス制限期間の短縮について

高田理事より、HP担当理事と編集委員会における確認事項として、学会誌に発表された重要な情報を、早期に社会に提供していく為、学会誌発行後1年間となっているHP上の学会誌のアクセス制限期間を半年に短縮することが提案され、了承された。

以上

日本エイズ学会誌編集委員会

委員長	杉浦 互	国立感染症研究所
	<i>Wataru SUGIURA</i>	
副委員長	今井 光信	神奈川県衛生研究所
	<i>Mitsunobu IMAI</i>	
委員	味澤 篤	東京都立駒込病院
	<i>Atsushi AJISAWA</i>	
	市川 誠一	名古屋市立大学
	<i>Seiichi ICHIKAWA</i>	
	小島 賢一	荻窪病院
	<i>Kenichi KOJIMA</i>	
	高橋 秀実	日本医科大学
	<i>Hidemi TAKAHASHI</i>	
	兵藤 智佳	早稲田大学
	<i>Chika HYODO</i>	
	丸井 英二	順天堂大学
	<i>Eiji MARUI</i>	
	三間屋 純一	静岡県立こども病院
	<i>Junichi MIMAYA</i>	
	村上 努	国立感染症研究所
	<i>Tsutomu MURAKAMI</i>	

日本エイズ学会誌編集委員会記録

第38回編集委員会

日時：2007年7月20日

場所：学会誌刊行センター会議室

出席者：杉浦委員長，小島，高橋，三間屋，村上各委員
高田昇ホームページ担当理事

欠席者：今井副委員長，味澤，市川，兵藤，丸井各委員

文献紹介

Langerin is a natural barrier to HIV-1 transmission by Langerhans cells (*Nature Medicine* 13 : 367-371, 2007)

ランゲリンはランゲルハンス細胞による HIV-1 感染伝播の自然の防御壁である

エイズウイルス (HIV-1) は通常粘膜を介して感染する。粘膜組織内に存在しウイルスを捕獲し CD4 陽性 T 細胞に伝播する鍵を握る細胞群が樹状細胞 (dendritic cell : DC) であり，粘膜上皮の最外層に局在し外部から侵入した HIV-1 に最初に出会うと考えられる細胞が DC 細胞群の仲間であるランゲルハンス細胞 (Langerhans cell : LC) である。本論文では，最外層に棲息する LC とそれより内部に点在する DC 両者の表面には異なる HIV-1 捕捉因子が発現しており，HIV-1 を CD4 陽性 T 細胞へ伝播する際にはこれらの捕捉分子が全く逆の作用を有していることを明らかにしたものである。すなわち，最外層に位置する LC はランゲリンという HIV-1 捕捉レセプターを発現し，ウイルスを細胞内に取り込み分解処理することによって T 細胞への感染伝播を抑制するのに対し，それよりも内層に分布する DC は別個の HIV-1 捕捉レセプターである DC-SIGN という分子を発現し，CD4 陽性 T 細胞に効率よくウイルスを伝播するということが判明した。さらに筆者等は，LC 上におけるランゲリンの発現を特異的抗体などで抑制した場合には CD4 T 細胞への HIV-1 感染伝播が促進されたことから，粘膜感染を阻害するために LC 上でのランゲリンの発現を維持することの重要性を指摘している。我々は以前母乳中の DC 関連細胞が粘膜破壊に伴う様々な感染症の併発に起因した IL-4 優位な状況において DC-SIGN の発現増強が起こり，DC-SIGN を介した HIV-1 感染伝播の促進が誘発されることを示した (*J. Infect. Dis.* 191 : 174-181, 2005) が，今後は粘膜バリアーの強化による病原体の侵入を防ぐと共に，バリアー局所のランゲリン発現を保つことが性行為を含む様々な HIV-1 感染を防御するための重要な方策を提示するものと考えられる。

(日本医科大学 高橋秀実)

編集後記

わが国では HIV/AIDS への関心が急速に低下しているという事実があります。アメリカで流行していた時期には、マスコミも世間の人びとも必死になって情報を集め、対策に走る姿が見られました。しかし、東南アジアとくにタイでは新規感染者減少傾向があります。また、国内での感染者は増加しつつあるものの、世界的に見て低い水準にあります。さらにはある程度は治療が可能になり死亡例が減少してきたことで、一気に気持ちは緩んでいます。

とはいえ、エイズに限らずあらゆる感染症はつねに逆襲の体勢にあります。薬剤耐性の問題もそのひとつであり、現在のところ微妙なバランスの上にあるウィルスとヒトとの関係もいつ崩壊するか知れないことは当然です。そうした中で、注目を浴びていた病気が忘れ去られようとしており、必要以上に社会的関心をもたれないようになってきたことでほっとしている患者の皆さんもあるに

せよ、依然として大きな問題の中にいます。それはまた研究や治療の問題としても残っています。

本号では、特集として「エイズ患者の抱える諸問題」を取り上げました。ご承知のように本誌は HIV/AIDS を対象として、基礎医学、臨床医学、そして社会医学の視点から総合的に扱っていかうという姿勢を持っています。さらにいえば、医学として総合的に見ていくだけではなく、当事者としての感染者/患者の立場から事態を理解し、考えていくことを目指してきました。その意味で、今回の特集企画は治療に焦点を当てているというものの、社会的・経済的問題にまで言及して、他の学会誌ではなかなか取り上げられないような側面からの特集になりました。

編集委員会はさらに今後も基礎、臨床、社会のバランスの取れた論文を掲載していきたいと考えています。ぜひ会員の皆さまはそれぞれの分野での研究成果を発表していただきたく、投稿をお待ちしています。

(丸井英二)

複写をされる方に

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(社)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の方でない限り、著作権者から複写権等の委託を受けている次の団体から許諾を受けて下さい。

(中法) 学術著作権協会

〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル

TEL : 03-3475-5618 FAX : 03-3475-5619

ただし、アメリカ合衆国における複写については、下記へ。

Copyright Clearance Center, Inc.

222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923, USA

Phone : 1-978-750-8400, FAX : 1-978-646-8600

Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization which has been delegated for copyright for clearance by the copyright owner of this publication.

Except in the USA

Japan Academic Association for Copyright Clearance, Inc. (JAACC)

6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052, Japan

Phone : 81-3-3475-5618 FAX : 81-3-3475-5619

E-mail : jaacc@mtd.biglobe.ne.jp

In the USA

Copyright Clearance Center, Inc.

222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923, USA

Phone : 1-978-750-8400, FAX : 1-978-646-8600

日本エイズ学会誌 (季刊)

第9巻第3号

2007年8月20日発行©

定価 3,500円 (税別)

編集・発行者

山本直樹

日本エイズ学会

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1

パレスサイドビル 2F

株式会社 毎日学術フォーラム 内

電話 03-6267-4550, FAX 03-6267-4555

財団法人 学会誌刊行センター

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16

電話 03-3817-5821

製 作

印 刷 所

創文印刷工業株式会社